

全国総会「開会あいさつ」より

皆さん こんにちは！ オンラインではありますが、皆さんの元気な姿を見ることができて大変うれしく思います。3月に予定していた全国総会を5ヶ月余り延期してオンラインでの開会となりました。初めての試みで試行錯誤の中での開催ですが、皆さんの創意と協力によって、困難を打開する方針をつくり、新しいスポーツ連盟の時代を開く全国総会となるよう、ともに力を尽くそうではありませんか。

さて、この2年5ヶ月の間に元会長の長尾正二さん、顧問の坂上光明さんはじめ数少ない先輩や仲間が亡くなりました。「スポーツは万人の権利」を実現するために余人に代えがたい大切な役割を果たしてこられたこれらの方々を追悼するため、黙祷をおこないたいと思います。(黙祷)

この5ヶ月、新型コロナ・パンデミックによって、世界からスポーツが消えました。オリンピックも史上初めて延期を余儀なくされました。国民の暮らしの中からスポーツがなくなり、スポーツ連盟の各都道府県連盟と各種目組織の皆さんのスポーツ活動も完全に休止状態となりました。

新型コロナ感染症予防対策は、人の移動と接触をさけることが最大の要であることから、人と人の対戦やチームとしての行動を特徴とするスポーツ活動は、感染拡大の場となるのが危惧され、さらに格闘技スポーツは競技の形式自体が感染拡大の環境となるとされています。コロナ危機によって、スポーツ活動の休止とともに、スポーツ自体の存在意義をも問われているのです。

コロナ危機は、人々の暮らしからスポーツを奪いましたが、スポーツのない5ヶ月間は、私たちにとって、あらためてスポーツの楽しみと魅力を再発見した5ヶ月でもありました。ですから、感染予防対策に万全を尽くしながら、可能なスポーツ活動の方法を、個人として、チームとして、組織として、様々な模索を続けています。今の状況がいつまで続くのか、そして、

収束の見通しはどうか、などについて、誰も断言できない状況です。こうした予測不可能な状況にあっても、私たちは一歩でも前に進みたいと思います。

新型コロナウイルスは、根源的には、人類が進めてきた文明が、地球規模の生態系をかく乱したことによってもたらされたとされています。私たちが暮らすその文明社会の福祉、医療、教育のシステムが、そして、「健康で文化的な最低限度の生活」を保障する体制と水準が、思いの外もろいものであったということ、日々実感しています。そして、私たちの暮らし方や生き方、そして、民主主義が試されています。強制や分断や排除や孤立ではなく、正しい情報の共有と人へのリスペクト、握手やハグがなくても、距離を保ったなかでも連帯と協力を生み出し、どんな命も、だれの命も大切に、そのような社会が求められているのではないのでしょうか。

こうした社会の中でこそスポーツは輝き人々をより寛容で豊かにするのではないのでしょうか。心身の全面的な発達と公正・平等・リスペクトを育むスポーツは、コロナ危機を乗り越え、コロナ後の新しい社会を支える不可欠な力となることに確信を持つようではありませんか。

スポーツ活動はいま、間違いなく待たれています。愛好者は活動の再開を願っています。その一方で感染拡大への強い不安をもつ方々も少なくありません。どちらの思いも尊重しなければなりません。専門家をはじめ他のスポーツ団体とも協力して、感染症防止対策をしっかりと行い、国や自治体に必要なサポートを求め、安全で安心して「スポーツを楽しむ新たな日常」をみんなの知恵を集めてつくりだそうではありませんか。

最後に、本総会の成功のため、多くの個人と団体から激励と連帯の言葉をいただきました。心からお礼を申し上げます。以上で開会の挨拶とします。

(新日本スポーツ連盟会長・和食昭夫)